



特選 願はくは 終章花の散る如く

鳥居本町 滝口 寿美夫

(評) 雑然とした人生の歩みの中で、苦悩を抱いて迎えるのも如何なものか。せめて散華の老芒の中に閉じて行く、そんな想いの心根を吐露されたのだろうか。人生無の境地ではないだろうか。

(安居)

特選 好奇心 未知の世界を引き寄せる

犬上郡豊郷町 元持 和子

(評) ある事に興味を持つ、関心を抱いて何故だろうと不思議に思う。宇宙にしても科学にしてももつと掘り下げて知りたくなる、この心で勉強する事によって知識となり向上心を生む。すばらしい。少年の夢なら尚更。

(柴田)

特選 ひたむきに 鋏降り起こす土光

長曾根南町 高 恵三郎

(評) 陽光と大地が語り合う春、自然の恵みに感謝し今年も良ろしくと念じつつ生き涯を感じる。至福が最大の喜び

(西村)

入選 ひたむきに 学ぶ心は風開く

稲里町 霸流 不良者

(評) 常に進取の気性を持ち、研鑽を積まれば、如何に難問でも道は開けると考へます。人生に幅も深みも広がって、常に前向きに生きる姿勢がうかがえる。

(安居)

入選 好奇心 手探りで緬う夢の糸

犬上郡甲良町 上野 初子

(評) 定年を迎へ、仕事人間から脱皮、今後の人生何を求める。趣味を深め行き自問自答で出す答え

(西村)

入選 願はくは 命の限り歩みたい

鳥居本町 寺村 美恵

(評) まず自分の願望が浮かぶ、平穩な世の中に生きて恥かしくない人生を歩みたい、人に嘲笑れる事なく齢重ねる程きれいな夢を見たい

(柴田)

入選 好奇心 小さな瞳の輝やいて

長曾根南町 日比野 美鈴

(評) 小さな世界に大きな未来が、広がっている。新鮮な夢の中より奇想な発見が生れるかもしれない。そんな期待と可能性を秘めている。前途洋々の願いが句にあらわれて居る。

(安居)

入選 好奇心 理性を揺する誘い風

新海町 野田美代

(評) 若さの秘訣 心身健康と言う大事 時には冒険も必要 不思議な魅力に酔う一時

(西村)

佳作 願はくは 楽しい日々が即浄土

甲崎町 神崎ひさ

佳作 ひたむきに 生きる力のある限り

東近江市 河崎章

入選 願はくは 此の星すくえ脱炭素

長浜市 近藤甚一郎

(評) 掛け替えの無いこの地球 未来に向って 温暖化防止へ一人ひとりが取り組み力を出し合い子孫に残そう青い水星を

(西村)

佳作 ひたむきに 盲導犬は心読む

松原町 大塚博

佳作 好奇心 老いてなお増し学を問う

蒲生郡竜王町 松瀬竜子

佳作 願はくは 笑顔の老後送りたい

長浜市 野口成人

佳作 ひたむきに 家族ささえし木の葉髪

稲里町 藤野千枝子

佳作 好奇心 扉を開く我が未来

鳥居本町 西川作江

佳作 好奇心 明日のプランに希望秘め

田附町 上田文子



佳作 願はくは 世界遺産に彦根城 佳作 ひたむきに 師を越す若獅子棋符の指

犬上郡豊郷町 北川 乙比古

蒲生郡竜王町 松瀬 博美

佳作 ひたむきに 生きた証の絵がここに 佳作 願はくは 銃なし核なしパラダイス

堀 町 河分 武士

普光寺町 河合 仙治

佳作 好 奇 心 恐^{こわ}さ知らずの光る瞳^めよ 佳作 好 奇 心 廻す夢軸奔放に

新海町 野田 ヒサ子

甲賀市 大原 ふさ子

佳作 ひたむきに 汚れなき歩の轍跡 佳作 ひたむきに 雑草を抜く春陽浴^{はるひ}び

新海町 野田 惣次郎

普光寺町 河合 淳子

佳作 願はくは 強くなれよと親心^{おやこころ} 佳作 願はくは 俱会一處の慈悲の国

岡 町 宮地 正子

新海町 辻 一男

佳作 ひたむきに 五十余年の農曆 佳作 願はくは 具縛の凡愚鎧脱ぐ

後三条町 吉原 初美

犬上郡豊郷町 西山 肇

佳作 好 奇 心 心機一転斗志燃ゆ 佳作 好 奇 心 未知なる世界若い星

犬上郡豊郷町 宮尾 良

田附町 佐々木 トミ

佳作 願はくは 極楽行きは花のころ 佳作 ひたむきに 走りつづけるカロム愛

長浜市 勝木 岩松

東沼波町 木原 正

佳作 願はくは 躓きながらもさわやかに

下西川町 古川 たけ

佳作 好奇心 もう遅けれど夢持って

鳥居本町 北川 夏子

佳作 ひたむきに 挑戦の矢が尽きる迄

東近江市 小林 清次郎

佳作 好奇心 試歩が万歩となる日まで

犬上郡豊郷町 西山 芳子

佳作 好奇心 心のポケット夢溢れ

清崎町 柳本 和子

《総評》

今年度始めて選を仰せられ、至らぬ乍らも懸命の選をさせて頂きました。冠句は冠題に添って七五で句想を練り、作句して行くものです。まづ冠題の説明ではなく発想や関連の事象を七五の十二文字で表現して行くかにかかっています。今年度も多く秀句がありましたが、選句に限りがあり、発表の選句となりました。やはり発想の豊さと、句の精練味が良句を生むものと考へます。如何に十二文字で、自然の営みや、生活の周辺の変化について、言葉で表すかが良句を左右します。冠句を愛好されて居られる皆様は、いろんな機会を通じて又新聞の文芸欄等を精読投吟されて、句想を深められて居られる事と存じます。今まで気付かなかった生活の中より生れた感性、又雲の流れ風のそよぎ等花鳥風月の形容詞の表現等良句の生れるチャンスと考へます。今年も選外句に良句もありましたが類似句等もあり残念だったと思います。益々研讀されて来年は今年より盛況になる事を思いを深くしています。

(安居)

選者吟

ひたむきに 一生けん命 生きて来た

柴田 遊児

好奇心 興味擦ぐる 趣味の道

西村 吟雪

願はくは 美の極点に 百花舞う

安居 尚文

